

調査対象物質	分析法フローチャート	備考
<p>[6]5-クロロ-N-{2-[4-(2-エトキシエチル)-2,3-ジメチルフェノキシ]エチル}-6-エチルピリミジン-4-アミン(別名:ピリミジフェン)</p>	<p><b>【大気】</b></p> <p>大気 → 捕集 (Empore Disk C18, 10L/分×24時間) → 溶出<sup>注1</sup> (アセトン 10mL) → 濃縮<sup>注1</sup> (窒素パーズ 100μLまで) → 転溶<sup>注1</sup> (アセトニトリル 1mL<sup>注3</sup>) → GC/MS-SIM<sup>注1</sup></p> <p>内標準添加 フェナントレン-<math>d_{10}</math><sup>注1</sup></p> <p>&lt;注&gt;次に示す方法を採用した例もあった。  1:溶出を超音波洗浄機により行い(アセトン10mL、10分間)、2500rpmで10分間遠心分離を行い、1mLを分取した。内標準物質の添加量を50ngとした。また、測定機器としてGCMS-QP2010、カラムはDB-5MS、長さ30mを使用し、GC/MS-SIM-EIで測定した。  2:測定機器としてCP-3800/1200Lを使用した。  3:測定機器としてThermoQuest (TRACE GC2000/POLARISQ)を使用し、最終液量を0.5mLに変更した。</p> <p>「平成18年度化学物質分析法開発調査報告書」 準拠</p>	<p>&lt;分析原理&gt; GC/MS-SIM<sup>注1</sup></p> <p>&lt;検出下限値&gt; 【大気】 (ng/m<sup>3</sup>) [6]1.8</p> <p>&lt;分析条件&gt; 機器<sup>注2 注3</sup> GCMS-QP5050A<sup>注1</sup> カラム Inert Cap WAX<sup>注1</sup> 15m×0.25mm、0.25μm<sup>注1</sup></p>